

なかとんべつ 町議会だより

Volume

232

令和7年7月25日発行



こども園運動会（6月28日）

いい笑顔をしていますね～暑い中頑張りました！

第2回定例会議決内容	3
私たちの一般質問	4
北海道町村議会議員研修会	8
報告事項・議会だより	9
宗谷管内町村議会議員研修会・ 議会の動き・編集後記	10

第 2 回 定 例 会



令和7年第2回定例会が、6月18日から3日間の会期で開催され、冒頭の教育行政報告で大島教育長から2点報告がありました。

1. 国立大学法人東京学芸大学と中頓別町との連携協定の締結について

人生100年時代において、子どもから大人まで学び続けることのできる複合施設「人生100年の学びの拠点・中頓別学園」の開設にあたり、東京学芸大学が持つ専門的知見や人的資源のサポートをいただきながら本町が目指す教育の実現に向けて取り組みを進めていくものであります。

2. 中頓別町立認定こども園園庭の利活用状況について

こども園の園庭は、子どもたちが自然と触れ合いながら、心身ともに豊かに成長できる。また、身体能力を身につけコミュニケーション能力の発達を促し健やかな心を育むことができる。そして、保護者の皆様や地域の皆様にとっての交流、憩いの場となって子どもたちの成長を共に見守ることができる場所として、令和6年7月9日にリニューアルオープンしました。休日も地域の皆様に一般開放し、町外の方の利用も数件見られます。

一般質問では、通告順に5議員が質問を行いました。

報告では、令和6年度一般会計予算を令和7年度に繰り越して使う「繰越明許費繰越計算書」のほか、町が資本金を出資している「有限会社中頓別振興公社」の令和6年度経営状況が報告されました。

町長から提案された、人権擁護委員候補者の諮問、情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るためのデジタル社会形成基本法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理、一般会計など補正予算9件、ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書案を原案可決し、19日に閉会しました。

第2回定例会で 決まりました



議決内容

○諮問第1号 人権擁護委員候補者に対する意見 藤田淳磨氏

諮問第1号は、任期満了に伴い町長が推薦する人権擁護委員1名について、議会の意見を求められたことに関して、適任であると答申しました。

(任期3年 令和7年10月1日～
令和10年9月30日)

○議案第43号 情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るためのデジタル社会形成基本法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定

デジタル社会形成基本法等の一部を改正する法律の施行による行政手続による特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の改正に伴い、次の条例の一部を改正するもの。

①行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例

②中頓別町議会個人情報保護条例

○議案第44号 一般会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ

2億9千4百5万円を追加し、歳入歳出の総額は60億9千948万円に。

歳出の主なものは、中頓別弥生線交付金事業2億1千万円、下水道事業運営補助事業2千71万円、商工業振興対策推進事業1千200万円などを追加するもの。

○議案第45号 自動車学校事業特別会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ7万円を追加し、歳入歳出の総額は5千983万円に。AT教習車に追加するもの。

○議案第46号 水道事業会計補正予算

収益的収支の収入支出既決予定額にそれぞれ1千95万円を追加し、総額は1億5千214万円に。水道事業会計経営戦略策定業務委託料を追加するもの。

○議案第47号 下水道事業会計補正予算

収益的収支の収入支出既決予定額にそれぞれ841万円を追加し、総額は1億3千96万円に。下水道事業会計経営戦略策定業務委託料を追加するもの。

○議案第48号 介護保険事業特別会計(保険事業勘定)補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ124万円を追加し、歳入歳出の総額は2億5千679万円に。総合相談事業の報酬及び職員手当等を追加するもの。

○議案第49号 介護保険事業特別会計(介護サービス事業勘定)補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ7万円を追加し、歳入歳出の総額は6千138万円に。特定建築物等定期検査委託業務を追加するもの。

○議案第50号 介護保険事業特別会計(施設介護サービス事業勘定)補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ21万円を追加し、歳入歳出の総額は2億3千512万円に。特定建築物等定期検査委託業務を追加するもの。

○議案第51号 後期高齢者医療事業特別会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ707万円を追加し、歳入歳出の総額は4千171万円に。総合行政システム改修業務委託料を追加するもの。

○議案第52号 国民健康保険病院事業会計補正予算

収益的収支の収入支出既決予定額にそれぞれ49万円を追加し、総額は6億344万円に。医療機械の委託料などを追加するもの。

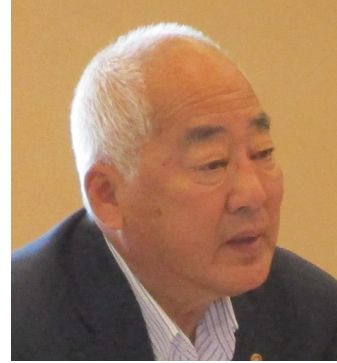
○発議第1号 ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書

※ ○は原案可決

ここが聞きたい、知りたい

私たちの一般質問

細谷久雄 議員



質問

人口減少・少子高齢化を見据えた町内自治会づくりについて

自治会は、地域コミュニティの中核を担う組織として、大変重要な役割を担っており、これまでも本町の発展に大きく寄与してきました。

一方で少子高齢化や世帯構成の変化、生活様式の多様化など社会情勢の変化から、自治体は担い手不足、地域との繋がりの希薄化などが課題となっており、以前と同じように地域活動を続けていくことが難しくなっています。

今後、自治会の役員不足が深刻化し高齢化が進む中で、私たちが住む地域の自治会の未来はどのようなものか大変不安を感じます。行政として持続可能な自治会のあり方についてどのように考えているのか伺います。

答 弁 ○小林町長

地域コミュニティ組織とその活動はまちづくりにとって欠かせない存在であり、町民の安心・安全を支え、交流やイベントなどを通して豊かで充実した日常の暮らしを営む上で大きな役割を担っています。

しかし、自治会は自主的・自立的な組織であり、その対策を町が主導するものではないという認識です。現状を踏まえると自治会の持続可能な体制づくりは容易ではないと思います。自治会連合会や各自治会からの意見・要望をしっかり聞き取り、町としてできることを考えていきたいと思っています。

高橋憲一 議員



質問

財政運営について

令和6年度の会計の状況について、特別会計の中で、病院会計が赤字決算となった理由をお知らせください。今までは、一般会計か

らの繰り出しで赤字を解消していたわけですが、今回そのような方法を取らなかった理由について伺います。

答 弁 ○小林町長

病院会計は1月の決算見込みを大きく上回る繰出必要額が発生いたしました。

原因としては、人事院勧告に伴う人件費の大幅増、想定を下回る患者数の減少、医療材料費等の物価高騰などです。

また、3月補正の段階で一般会計に財源不足の兆候が見られ決算見込みを上回る繰り出しを行った場合、財源不足にはならないとしても、繰越金に不足が生じる可能性があり、本町の財政運営に深刻な影響を与える可能性があったため、必要額を補填することができず病院会計は赤字となりました。

質問

公衆浴場の確保にかかる対策について

現在、町営のピンネシリ温泉が改修のため約半年の営業休止状態なわけですが、この間の自治体が果たすべき役割としての公衆浴場の確保及び支援について、現状どのような対策を取られているか伺います。

答 弁 ○小林町長

平成18年の町営浴場廃止後、ピンネシリ温泉のみが担っていました。その後町民の手で「黄金湯」が復活しています。

改修等の初期の支援のほか、現在は年間の

限度額を130万円にまで引き上げています。入浴困難者は10世帯程度と思われませんが、多少にかかわらず地域のコミュニティとして貴重な役割を果たしていることから、今後も連携して持続していきたいと考えています。

吉田 智一 議員



質問

健康診査等の取り組みに係る考え方について

町の健康診査等の取り組みについては、人間ドックの受診に係る助成について、本年度からの実施で検討を進めたいとの回答をされたと思いますが、人間ドックに対しては特定健診分の助成と、同時に胃・肺・大腸等のがん検診を受診した場合の補助であり、物足りなさを感じます。

道内において複数の市町村がすでに

実施していると以前にも伝えましたが、様々な病気の早期発見・早期治療のためには、多くの検査項目のある人間ドック等の総合的な健診が有効と考えての助成であり、その中に特定健診も含まれることから、人間ドックに対する助成を実施しているのが現状と考えます。

助成対象となる医療機関は旭川市内の医療機関であり、交通費や場合によっては宿泊費などの経費も考えると、積極的な受診にはつながりにくいのではないと思いますが、今回この助成内容で町としての目指すところについて町長の考えを伺う。

また、健診機関については償還払いの方法も含め、助成の対象となる医療機関を近隣の医療機関等、今後増やしていく考えはないのかについて伺います。

もう一点として、現在は当町の町立病院での人間ドックは実施できないと伺っていますが、将来の実施の可能性についての考えを伺います。

答 弁 ○小林町長

町民の皆様が健康をきっかけに自身の体への理解を深め、主体的な健康づくりに取り組むことにより「いくつになっても健康で、いつまでも元気で過ごすことのできる」ことを目指しています。

特定健診や各がん検診の受診がしやすいよう、ワンコイン検診の実施など受診環境の整備に努めてきましたが、さらに皆様のニーズに合わせた受診環境とすべく、本年度からは町外で個別健診を実施している健診機関2カ所も委託先に加え、一部助成を開始することとしました。このことで、町外での特定健診・がん検診を希望する方が、町内で受診するのと同様の助成を受けることができ、胃がん検診については、バリウム検査が胃カメラ検査を選択することを可能とし、選択肢を増やしたことで、積極的な受診と健康の保持増進に繋がることを期待しています。

検査項目の多い人間ドックですが、これに助成する市町村が増えていることからニーズがあるものと感じていますが、改めて受診状況を詳細に分析し、助成対象の拡大について検討していきます。

どこの病院でも受診可能にするには、償還払いも考えられますが、受診券の発行ができないため、国からの交付金を受けられなくなるデメリットもあり、個人や財源に対するメリットやデメリットを総合的に考えていきたいと思っています。

町立病院では、現在事情により人間ドックの対応ができていませんが、体制を整えば再開を検討したいと考えています。

蓮尾 純一 議員



質問

学校建設以外の子育て支援施設の現状

町内には、元々遊具設備を有した公園がありますが、寿公園をはじめ、遊具が壊れており使用できないものや老朽化して本来の使い方ができないものの、撤去されたのち再整備されていないものも散見されます。

現在、子育て支援を拡充していると認識をしていますが、子育てする環境としては、通常通り利用ができる屋外の公園をはじめ全天候型の公園の設置やアーバンスポーツ施設の設置など遊び場の提供も必要だと考えていますが、学校以外のハードへの対応について町長の見解をお伺いします。

答 弁 ○大島教育長

町内各所に公園がある中で寿公園に
関しては来年度に新しい遊具を設置す
る計画です。他の公園に関しては安全
面の確保を最優先に取り組んでいます。
全天候型の遊び場については柔剣道場
の改修案を含む構想があります。アー
バンスポーツ施設も含め今後の計画化
に向けて準備を進める予定です。持続
可能性を考慮し町民の皆様からのご意
見をいただきながら具体的な計画を策
定する方針です。

質 問

物価高騰による町民の家計の状況
について

手取り収入の増えない現状の中、物
価高騰等により生活に支障をきたして
いる現状が浮き彫りとなっています。
町民の負担が大きくなっている通院や
上下水道への支援などは行政として支
援が可能ではないでしょうか。

人口規模の大きな自治体でも支援に
乗り出している現状の中、人口規模の
小さな本町において実施は難しいでし
ょうか。今こそ行政の支援が必要な時
であり、政府には見えない自治体単位
での支援や解決策が必要な局面である
と認識していますが町長の認識を伺い
ます。

答 弁 ○小林町長

今日の物価高騰について町民生活に
与える影響が大きいことは確かだと思
います。町独自の従前の支援策だけで
足りるのか検証する必要があると思い
ますが、自治体与えられている財源
も僅かであり大きな支援策を講じるこ
とは難しい現状となっています。

上下水道に関しては現状で収支均衡
を図るには水道で6割、下水道で4割
ほど収入が足りていません。不足分を
町が補填しているので当面は助成等は
行わずこの状態を続けたいと考えてい
ます。

いずれにしても国や北海道の対策な
ども見極めながら議会とも相談しなが
ら検討していきたいと考えています。
これを機に生活に困窮している町民の
ため緊急対抗ができるよう相談体制の
強化について検討したいと思います。

質 問

医療体制の今後の見通しについて

医療の高度化や人材不足で全国規模
で地域医療の崩壊が始まっていること
が大きな社会問題となっています。

当町においても医療における人件費
の高騰や医師不足、医療にかかる資材
の高騰により町営病院の経営が難しく
なってきたおり、今後の医療体制の見

直しを検討しなければならぬ時期に
入っていると考えますが、今後の病院
経営の見通しや幼児から高齢者全体を
考えた医療福祉体制の方針について町
長の現在のお考えをお伺いします。

答 弁 ○小林町長

病院の患者数減少に伴う収入の減、
医師等従事者不足により運営が厳しい
状況となっていることから現状を多角
的に分析し診療所化を含めた今後の方
向性について、準備段階における課題
整理を進めてきています。

現在の状況から考えますと病院とし
て維持することは財政面や将来的な人
材確保の困難性もあり、診療所への移
行は避けられないと考えています。移
行に関しましては有床、無床、救急の
受け入れ等も含め更なる課題分析やシ
ミュレーション等を行い今年度中には
方向性を決めていきたいと考えていま
す。



宮崎 泰宗 議員



質 問

自治会との連携について

人口減に苦しむ宗谷管内の中でも、
最も高い減少率となるほど本町の人口
減少は進んでおり、市街地でも自治会
の活動や機能の維持が難しい状況とな
っているが、コロナ禍以降では特に葬
儀や、神社祭、スポーツフェスティバ
ルなどの祭事等への影響も大きいと思
われる。

葬儀に関しては、平成24年に町職員
葬儀派遣実施要綱を定め、自治会から
要請があった場合、最大で5名の町職
員を派遣できるものとしているが、市
街地も対象とすべき状況ではないか。
職員の派遣に限らず、民間の事業とし
ても、町内の事業者、民間団体等の有
償事業として行われるような働きかけ
も必要ではないか。

祭事等では、コロナ禍で中止となっていたイベント関係も多くは再開されている状況であるが、町民参加型の最大イベントであったスポーツフェスティバルが再開されていないことから、自治会の活動低下は明らかである。再開された他のイベント等も、運営側の負担が大きくなっていることから縮小傾向となっており、神社祭も参加者の確保などから今の担当自治会だけでは今後の開催は難しい状況と思われる。こういったことも含め、自治会活動の負担軽減や、これからの自治会との関わり方、今後の連携強化の考えについて伺う。

答 弁 ○小林町長

高齢化や世帯数の減により自治会の役割においても負担が増えている点において、広報等の配布については事前に編纂して届けるなど、町としてできる対策を講じていく。

神社祭では、行政として渡御などに参加していない自治体もあり、慎重に判断する必要があると思うが、スポーツフェスティバルの再開なども含め、町民が楽しみにしている行事の開催にあたり、町としてできることは協力していきたい考えである。

人口減少に伴う地域活動維持の課題に向けては、自治会連合会や関係機関、住民など地域主体による連携や共助の

ほか、持続可能な仕組みづくりについて議論を深める必要がある。

葬儀の在り方はコロナ禍を境に大きく変わったが従前のように自治会で執り行う慣習が薄れていることを残念に思う。これまで葬儀は地域の共助により執り行われてきているが、特に沿線の自治会では人口減少によって、葬儀ができない状況になってきた実態を踏まえ、15世帯以下となった自治会を目安として職員を派遣できるようにし、平成24年度から支援を行ってきた。町内の人材で賄う民間の事業化等にも期待し、これからのような葬儀が望まれるかを見据えながら、現行制度の見直しを含め、自治会とも協議していきたい。

質 問

広報活動（町の機構図等）について

4月の広報で新年度の機構図が配布されたが、職員の氏名や役職どころか町長はじめ町三役の名前もない。なぜ今年度、突然このような内容にされたのか。町民に配布するものについては今まで通りの内容で問題ないと思うが、何か支障があったのか。これでは担当者から聞いているが、町長は課の中に複数の課長を配置した理由の一

つとして、責任感を強めてもらう狙いがあるとおっしゃっていたように記憶している。町民に名前や役職を知られないようなになったら、緊張感や責任感が薄れるのではないのか。

また、町の広報活動については、人口減少などで自治体としての規模は小さくなっているが町としての事業は減るところが年々増加し、それに伴って配布物の分量も増えている。各家庭に配布するだけでも大変になっている中、仕分けの負担まで増していることになるが、この点、町は今年度丁合機と折り込み機の購入を予定している。これにより配布を担当する町民の負担が軽減されると思うが、どのような状況か。

答 弁 ○小林町長

近年、全国的にカスタマーハラスメントが問題になってきており、対策が進められてきている。当町においては、昨年度から名札の表示を名字のみに変更しているが、組織機構図においても対策の一環として、職員氏名を表示しないこととした。組織機構図については令和6年度まで政策経営課で広報と合わせて作成してきたが、令和7年度から所管である総務課で作成するよう予算も含めて整理を行い、今年4月に発行した組織機構図から見直しを行ったものである。

質 問

中頓別学園整備事業、町内波及等の状況について

ここまで本町ではカスタハラを原因とする退職の事例は無いと認識しているが、公務員のなり手不足も進んでいることからプライバシーや心理的負担を考慮してのことで、職員は機構図における氏名の表示の有無に関わらず、これまでどおり高い緊張感、責任感を持って職務にあたってくれるものと考えている。

広報誌等配布物の丁合作業に向けては、当初予算で議決いただいた丁合機と併せてA3サイズの折込機も必要と考え今議会で購入費を計上した。丁合機の購入も本予算の成立に合わせて進め、準備ができ次第丁合した配布物を自治会各班长にお届けしていきたいと考えている。

中頓別学園の本校舎建設事業は、35億円から46億円に、46億円から53億円へと、ここまで一度も立ち止まることなくスタートしたことになるが、予算や工期は予定通りに納まるのか。工事の進捗状況や宿舍確保などの状況、総事業費の見直しについても伺いたい。

また、これだけの莫大な費用を投じる事業であることから、町内への波及

効果についても再三お訊ねしてきたところであるが、予算が定まっていなかったことなどから具体的な回答はいただけていない。この点、町長が答弁された「試算ができる状況」となったのではない。

4月の広報お知らせ版に処分される学校備品を町民に譲るという内容が掲載されていたが、これまでも、まだ使えそうなものが廃棄されているなど、これだけ議論している中で、備品の処分に関する対応についての説明はなかったように思うが、この点いかがか。

これまで小学校の体育館を利用していた少年団や一般のスポーツ活動などは、中学校の体育館で問題なく継続されているのか、併せて伺う。

答 弁 ○大島教育長

工事費については、物価の高騰や入札の不調により当初予算を大きく上回り、最終的には随意契約となったが、工事は予定通りの工程で進んでおり、工期内に完成する見込みである。

不要になった学校備品については、仮校舎移転の段階で学校側から報告があり、まだ活用できそうなもので、公共施設等では使い切れない分について、譲渡する旨を広報でお知らせし、対象になつていた備品はすべて希望された町民の方々に引き取られた。再移転時に発生する不要備品についても同様に

対応し、町民への周知を行う。

小学校の体育館を利用していた団体は、すべて中学校の体育館に移動していただき、これまでと同じように活動されている。利用団体の意見を聞きながら必要な調整を行い、今後の利用状況に応じては校舎移転後も活用できるようにしていく。

答 弁 ○小林町長

懸念されている事業費の見通しについては、賃金や物価のさらなる上昇や大幅な設計の変更が発生した場合等、また今後の外構関係の設計によってさらに増幅する可能性がある。当初この部分に対する大きな予算は想定していなかったが今回公園の整備に関する質問を受けたことも踏まえ、毎年の普通建設事業分を意識した予算措置、学校備品の購入をできる限り見込まない工夫等で、さらに財源を確保する必要もあると考える。

町内経済への工事の波及効果について、温泉の工事も当初の予定より時間がかかるなど、効果が見通せない部分も多く現段階でも試算には至っていないが、関連する消費については最大限となるよう努めていく。長期滞在される工事関係者の公営住宅等への入居は進んでいる。今年は国勢調査の年でもあり、入居の条件や税收につながる当町への転入についてもお願いしていく。

質疑・質問は 要約されています

スペースの都合上、審議した議案や質疑・質問と答弁の内容を要約して載せています。

会議の内容は、会議録に詳細に記録されており、ご覧になりたい方は議会事務局までお問い合わせください。



中頓別小学校改修工事の様子

全道町村議会議員研修会報告

(報告者…蓮尾 純一)

7月8日、北海道町村議会議員研修会が札幌コンベンションセンターで全道の町村議会から議員、事務局職員合わせて総勢約1,800人が参加して開催されました。当町議会からも全議員及び事務局職員が参加しました。

本年は二講演拝聴し、一公演目が「地方議会における議員の多彩化に向けて」地域社会の「鏡」としての議会を考える」と題し、西南学院大学法学部 勢一智子教授より地方議会における成り手不足に係り、報酬の点から兼業でしか議員になりづらい点、若者や女性が議員に興味を持っていない点について指摘がされたのち、地方の議会制度を維持するための方策や社会意識の変革の必要性について提言がありました。

二講演目として「人口減少社会を生き抜くために」と題し、人口戦略会議 副議長 増田寛也氏より政府の人口減少社会における地方自治体の維持に向けた新しい方針について説明があり、自治体職員の負担軽減や人材の再分配の必要性について提言があり、全国の自治体における官民連携など好事例について説明がありました。参加にあたり議員全員で今後の議会活動に反映すべく気持ちを新たに持ったところです。

報 告 事 項

※ 町が出資する法人等は、毎年度、経営状況を議会に報告しなければなりません。

報告第2号 有限会社中頓別振興公社の経営状況報告

寿レクリエーション施設、一般廃棄物処理施設、鍾乳洞ふれあい公園、国保病院管理清掃、有害鳥獣処理施設業務等を営む同社全体の令和6年度決算状況は次のとおりです。

当期純利益が5,940,780円となりました。

●損益計算結果、貸借対照表

・収益合計	93,185,985円
・費用合計	85,748,933円
・営業利益	7,437,052円
・当期純利益	5,940,780円
・資産合計	41,101,576円
・負債合計	5,720,200円
・純資産合計	35,381,376円



有限会社中頓別振興公社

※ 繰越明許費（くりこしめいきよひ）は、予算に計上されているが、年度内に支出が終わらないと見込まれるものについて、予算に定めることにより、翌年度に繰り越して支出することができるものです。

報告第1号 令和6年度一般会計繰越明許費繰越計算書の報告

（単位：千円）

事業名	繰越金額
建設設計業務支援事業	2,888
税務事務事業	73,498
低所得者支援等給付金事業	11,320
出産・子育て応援事業	1,188
環境衛生事業	12,322
ピンネシリ温泉運営事業	46,300
中頓別弥生線交付金事業	4,274
中頓別学園整備事業	41,000
合 計	192,790

※ 令和6年度から令和7年度に上記事業予算が繰り越されました。

「位置について、・・・用意ドーン?」

小さくて元気な妖精が園のグラウンドを駆け巡る。からっと晴れたった快晴の運動会日より、申し分のない天候の下で、園児の元気な姿を見ると、こちらも元気になる。競技の中心から外れたところでは、感情のコントロールが苦手な子どもたちだろうか?特に理由もなく泣き叫んだり、大声を出して叫んだり、とても賑やかでそれがまた楽しい。小さな町のこども園の運動会、園児の親も、来賓も参加して運動会を盛り上げる。

プログラムは進んで、ALTの言葉を聞き取り、果物の名前を英語で言い当てる協議は「ストーリー・ベリー」(strawberry)??園児はちゃんと赤いイチゴの絵を選択してゴール。「すごい!」発音といい、選んだ果物はばっちり。英語の接し方が我々ジジ・ババ世代とは大きく変わった。多分我々の時代、先ほどの発音は「ストロー・ベリー」で通じていた(少なくとも日本人には)。やはり生きた英語の違いをまざまざと見せつけられた気がした。静かに流れているBGMに懐かしいメロディーの心地よさが響いた。オールドファンには「テレビの歌番組に当時必ず登場していたあの曲だ」と思った。もうすぐ盆踊りもやってくる。

荻野目洋子の「・・・今夜だけでもシンデレラ・ボーイ Do You Wanna Dance Tonight?・・・」どこかの町の盆踊りの曲に登場しているらしい。You tuberで配信している。あの曲のノリで盆踊りも楽しいのが目に浮かぶ。北国の短い夏は、神社祭、夏祭り、盆踊りと立て続けに開催されやがて雪に覆われた寒くて長い冬がやってくる。・・・北国の夏を存分に楽しもう。

(綴人・西浦岩雄)

議員だより ～私の思い～

このコーナーは、それぞれの議員が町づくりや議会活動などについて思いを綴るものです。



宗谷管内町村議会議員研修会報告

令和7年度宗谷管内町村議会議員研修会が5月20日、稚内市「サフィールホテル稚内」において開催され、8名の議員が参加しました。

研修会では、本年度は稚内市内での開催となったことから、管内9町村に稚内市の参加となり、各市町村の議会議員や事務局職員が出席し、総勢112名の参加により開催されました。

はじめに主催者を代表し、宗谷町村議会議長会会長である藤井信幸会長（利尻町議会議員）が挨拶をし、来賓挨拶として、畠山誠宗谷総合振興局副局長の祝辞をいただき、開催地代表として山森清志猿払村議会議員が幹事町村議長あいさつを行いました。

研修会の講演では、株式会社セコマ取締役会長 丸谷智保氏による、「産業と地域を支える物流の重要性」と題し、北海道が抱える物流についての課題、地域にとって必要な物流体制について、広い北海道の中で物流の難しさ、豊富牛乳をチルド状態でしかも短期間で道内各地の店舗への運搬は運転手不足の問題等、常に変化する状況にある。また、動脈物流（商品の物流）と静脈物流（牛乳パック、廃油、段ボール等の回収のための物流）を上手く活用するなど、興味深い貴重な公演をしていただきました。

研修会終了後には、サフィールホテル稚内において交流会が開催され、三好雅北海道議会議員に来賓として参加いただき、他市町村議員との情報交換など、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

（報告者：吉田智一）



議会の動き

4月

- 28日 全員協議会
- 30日 まちなか議会カフェ

5月

- 9日 観光協会通常総会
- 10日 クリーン作戦
- 15日 商工会通常総会
- 17日 まちなか議会カフェ
- 18日 中頓別消防団春季消防演習
- 19日 第4回臨時会
- 20日 宗谷管内町村議会議員研修会（稚内市）
- 26日～28日 町村議会議長・副議長研修会（東京都）

6月

- 3日 議会運営委員会
- 6日 議会運営委員会
- 10日 北海道町村議会議長会定期総会（札幌市）
- 18日～19日 第2回定例会
- 24日 なかとんミーティング
- 28日 認定こども園運動会
- 30日 戦没者追悼平和祈念式

7月

- 8日～9日 町村議会議員研修会（札幌市）及び道議会視察



- 11日 議会広報編集特別委員会
- 15日 宗谷管内市町村議会議員政策形成セミナー（稚内市）
- 17日 議会広報編集特別委員会

発行 中頓別町議会
編集 議会広報編集特別委員会
お問合せ 北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172番地6
tel (01634) 6-2244 (直通)
fax (01634) 6-1155
e-mail gikai@town.nakatombetsu.lg.jp

編集後記

雪が解けて新緑の謳歌する春から外にいてウキウキするような夏が訪れる季節になって6月の定例会が開催される。懸案だった学園建設は3月の臨時会で多くの議論の結果、建設に向けて可決されたため、今回は補正予算が主で大きな懸案事項も比較的少なかったため、順調に閉会を迎えることができました。前定例会では、定例会の後に「議会カフェ」も開催されて、多くの町民と数回にわたって忌憚のない話し合いが持たれ、多くの人の理解の有り方や議会の立場について少なからず理解を得たのではないかと考えています。特に学園問題に関心の高い方の参加が多かったような気がしております。やはり、関心のある問題や課題は町民も議員も変わりなく、町民の方も町の将来を真剣に考えてくれていることが改めてよくわかりました。これから町民も議員も手を携えて町の将来を考えていきたいと思えます。ただ、ちょっと心配なのは議会カフェに来ていただいた方には感謝の気持ちがあるが、より若い世代（20～40代）の方の参加が少なかつたのが寂しい思いをしました。これから議会カフェをもっともっと周知させて若い世代にも受け入れられる議会カフェを目指していきたいものです。もちろん議員ももっと若い世代の人が議員になってこの町を牽引してもらうことを願っています。

先日、何気なくYouTubeを観ていると、猿払村議会の定例会がライブ配信されているところを観て、近くの議会もいよいよいろいろなSNSを駆使して議会をより多くの人に知ってもらうための努力をしていること。やがてこの議会も全世界の人に配信される時代が来る日もそう遠くはないのだと思った。